

2024年 第18回 ジュニア選手権大会規定

- ① この大会は当該年度の「公認野球規則」及び神戸市少年団野球リーグのルール及び各少年団野球リーグ地区委員会規則、各少年野球連盟規則、並びに下記細則により試合を行う。
試合は5回戦とし、70分を過ぎて新しいイニングに入らない。
時間内であれば、延長を1回は認める。
時間が経過して同点の場合は抽選により勝敗を決する。
コールドゲームは、4回以上10点差をもって成立とする。
但し、決勝戦については別途定める。
投手の球数制限を60球とする。
試合中に60球に達した場合はその打者の打撃が完了するまで認める。
牽制球・投球練習球は投球数に含まない。
過失により制限された投球数を超えた場合、その打者の打撃完了まで認める。

【注】投球数のカウントは、本部が行う。
残り10球に到達すると、本部は守備側チームに伝える。
チームがカウントした投球数と本部がカウントした投球数との差異があったとしても、本部の投球数カウントが有効である。
差異に対しての異議は唱える事は一切出来ない。
但し、試合中に本部での管理の不具合等により、投球数のカウントに支障が起きた場合は、チームがカウントしていた投球数を参考にして本部が投球数を確定する
- ② 選手の集合は試合開始予定時間30分前とする。
ベンチは若い番号が1塁側とする。
ただし、本部の指示が優先する。
試合中にベンチに入れる指導者は5人を限度とする。
30分前に本部にメンバー表を3部提出し、先攻後攻のトスを行なう。
投球練習は、初回及び交代時は5球、その他は3球とする。
シートノックは4分間とする。
ボークは、注意のみとする。
監督には抗議権はない。ただしプレーの確認はできます。
バッテリー間14m・塁間21m
ホームランラインは原則として60メートル以上とする。
会場によっては本部の指示に従うこと。
- ③ 審判は相互審判を原則とします。
服装はそれぞれの地区委員会・連盟の審判服を着用してください。
※前・後審判であっても若番が主審を行う。
- ④ 大会会場には、責任者を必ず配置をすること。
- ⑤ 雨天中止の決定は、午前7時30分に行なう。
各チームは大会本部に確認をすること。
グラウンドで起こった負傷については、大会会場の責任者が応急処置は行なうが、それ以外の責任は一切負わない。
事故など無いようにチームで充分注意を払うこと。
- ⑥ 試合球は出来る限り本部で用意するが、本部の指示で試合チームから試合球の提供を求める事があるので用意をすること。
※試合球は、ナガセケンコーを使用する。